

# スズキが描く将来のモビリティインフラ構想 ～次世代モビリティサービスを支える技術と開発事例～

2026年 2月 6日  
スズキ株式会社  
次世代モビリティサービス本部  
モビリティ連携基盤開発部  
杉村 嘉秋

# 会社概要

社 名 スズキ株式会社  
 設 立 1920年(大正9年)3月  
 資 本 金 138,370百万円 ※1  
 代 表 者 代表取締役社長 鈴木 俊宏  
 従 業 員 連結:72,372人 単独:16,955人 ※1  
 売 上 高 連結:5兆8,252億円 単独:2兆6,279億円  
 主要製品 四輪車、二輪車、船外機、  
 パーソナルモビリティ等

※1…2024年3月末現在 ※2… 2024 年度



スズキの強み

多様なモビリティ

四輪・二輪・マリン・  
 パーソナルモビリティ

日本・インドでの市場シェア

市場シェア(2023年度)

■日 本:軽自動車……34.0%  
 ■インド:乗用車……41.6%

世界展開

四輪販売シェア1位の国(2023年度)

10カ国

パキスタン、インド、ブータン、ハンガリー、バルバドス、ボリビア、コートジボワール、ジブチ、アンゴラ、モーリシャス

強固な財務体質

連続当期純利益

■連続黒字……73年間

# 1.会社概要 | 創業者の思い

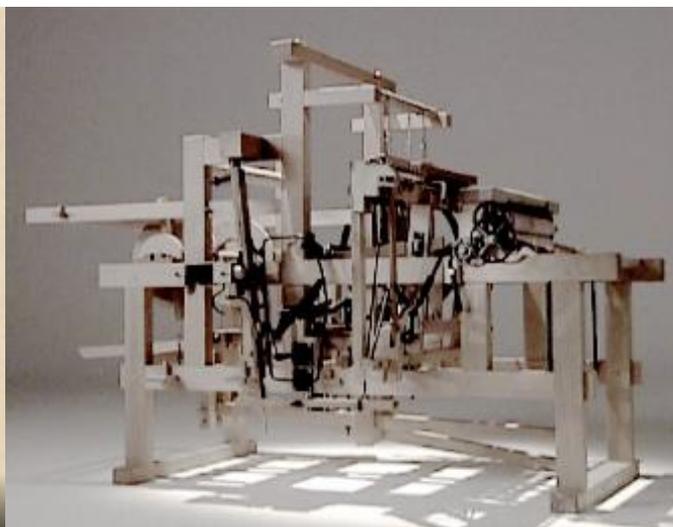
—始まりは、「母の困りごとを解決したい」との思いから—

## 価値ある製品で お客様の困りごとを助け、 幸せを実現し、社会の役に立ちたい。

創業者 鈴木道雄が織物仕事で苦勞している母のため1910年に織機を作り、1920年に鈴木式織機株式会社として設立しました。



創業者 鈴木道雄



母に贈った第1号機



鈴木式織機製作所

一始まりは、「母の困りごとを解決したい」との思いから—  
価値ある製品で お客様の困りごとを助け、  
幸せを実現し、社会の役に立ちたい。

時代の変遷に合わせ、織機から二輪車、四輪車、船外機など、その製品は広がり、世界の様々な人の暮らしを支える会社へと姿を変えてきました。





行動理念

**小・少・軽・短・美**  
 小さく、少なく、軽く、短く、美しく。  
 ムダを省いた効率的で高品質なものづくりの  
 基本方針で、スズキを象徴する理念です。

**現場・現物・現実・原理・原則**  
 直ちに現場へ行き、現物を五感で感じ、  
 現実を認識し、机上の空論を徹底的に排除し、  
 物事の本質を的確に把握し、問題を  
 解決します。

**中小企業型経営**  
 意思決定の速さ、人と人との距離の近さ、変  
 化に対応できる柔軟性、これらを常に  
 持ち続けることを「中小企業型経営」と  
 呼んでいます。

# チームスズキは 『生活に密着した インフラモビリティ』 を目指す

スズキは創業の精神と社是・行動理念を実践し、四輪・二輪・マリンといったモビリティを軸にお客様の生活に密着した商品・サービスを提供し、お客様の生活をより良くし、生活を支えていく存在になりたいと考えています。

詳しくは

スズキ 新中期経営計画



代表取締役社長

鈴木 俊宏

Toshihiro Suzuki

# 次世代モビリティサービス本部

# Mobility for Life

- 暮らしに寄り添う、一生寄り添う -

## ひとり一人の 暮らしと人生に寄り添う 新しい価値を創造する

SUZUKIは「小さなクルマ、大きな未来。」をスローガンに、価値ある製品をつくってきました。SUZUKIは「移動」を超えたところにおいても、ひとり一人の“暮らし”と“人生”に寄り添う新しい価値を創造していきます。

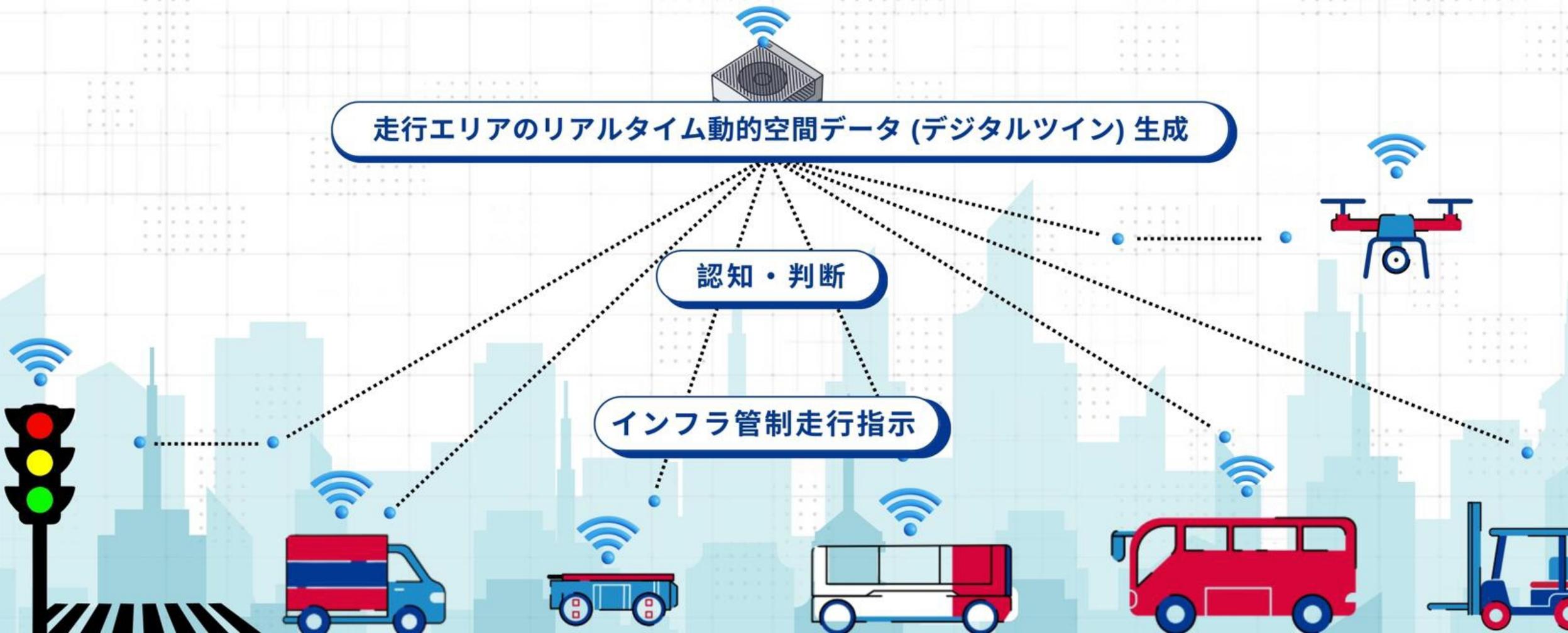


# モビリティ連携基盤

- ▶ リアルタイム動的空間データ連携基盤
  - ▶ インフラ管制自動走行システム

キーコンセプト ⇒ “空間制御”による”自動走行”

空間が最適にモビリティ群をコントロールする時代へ



# モビリティ連携基盤の概要

モビリティ連携基盤：

シン・スマート\*\* (サイト、ゾーン、グリッド・・・)⇒シン・スマートファクトリー等を実現するソリューション  
インフラ設置のLiDARデータを活用した採算性が成立する小少軽短美且つ、多機能な空間データ連携基盤

お客様への提供価値：

状況(トレンド:人出不足や人員過剰・・・)や変化(イベント:関税、生産量変動・・・)に  
即時対応可能な効率的(変化に対応出来ている上で、ムダ・ムラ、ムリが無い)な空間を実現

二本柱

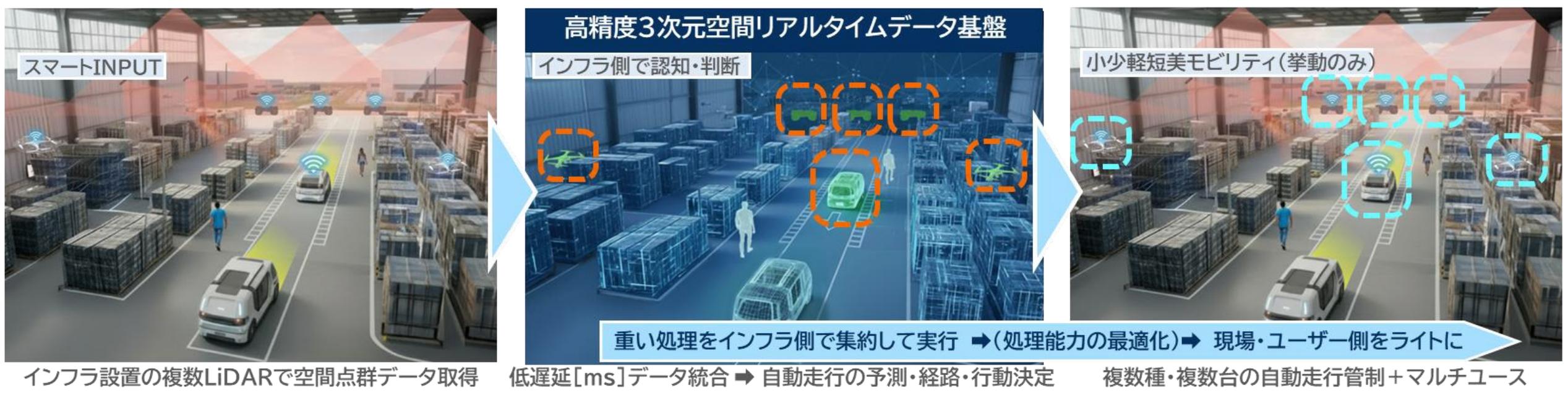
- ▶ 「リアルタイム([ms]オーダー)動的空間データ連携基盤」
- ▶ 「インフラ管制自動走行システム」

mission

一般の人々がリーズナブルに利用できる空間データ基盤と自動走行システムを提供し、より良い社会の実現を目指す。

# モビリティ連携基盤\_\_インフラ管制自動走行システムコンセプト

インフラ管制自動走行システム:モビリティではなくインフラ側に制御機能を持たせ、モビリティを自動走行させるシステム



## 自律型自動運転車両では得られないインフラ管制ならではの経済性と社会性を提供

- ①▶ コスト最適化(必要十分な性能に応じた投資)
- ②▶ エリア導入(複数モビリティによるシステムシェアリング)
- ③▶ 車両側最小構成(小少軽短美・耐久性・価格)
- ④▶ 汎用H/W(高性能・低コストな据え置き型機器)
- ⑤▶ 複数モビリティ協調走行
- ⑥▶ 安全/安心(走行エリア死角無し情報で安全な走行)
- ⑦▶ リアルタイム動的空間データ活用(データの多用途活用)

変化に遅れる工場では、生き残れない

## 社会の変化とスマートファクトリーの限界 ≡ スマートシティ

人手不足、需給変動、熟練技能の消失、設備老朽化など、現場を取り巻く環境は年々厳しくなっている

従来のスマートファクトリー構想は「全自動化」、「ゼロベースでの再構築」が前提。多額の初期投資と画一化が求められるが、変化に弱く、柔軟性に欠ける

現場では「人を減らす」ことではなく「人の価値を最大化する」ことが本質的なニーズとなっている

### 従来のスマートファクトリー vs モビレンのアプローチ

低い



古い設備・変化が少ない  
既存ライン



現場職人が柔軟に工夫して  
回している属人的現場



現状の多くの現場スマートファクトリー  
導入前の工場。  
AGVやAMRを試したが変化対応に限界。

柔軟性

高い



モビレンが目指す  
世界軽量な構成で柔軟に変化対応。  
空間の再定義による“意味”の再構成。



*Always Ready. Always On.*

INCOMING MESSAGE  
**mobiren**

